所長 山本 の

ワイズリレーインタビュー

第28回 株式会社小彌太の代表取締役社長 小瀬川弘樹さんに聞きました！

祭りの袢纏から七つ道具まで。まちを彩り、創造する、古くて新しい染屋

Q まずは、業務内容を教えてください。

小瀬川　染屋です。社旗や国旗などの旗、建物に掲げる懸垂幕、庁舎の横にある横断幕、お祭りで使う袢纏、たまに浴衣など、大きいものから小さいものまで染めます。工場は本社と東和町の2箇所で、布物やスクリーン印刷の部門、看板などのグラフィックサイン部門、そして選挙用品部門があります。選挙用品では、いわゆる「七つ道具」と言われる候補者表示物の生産数は国内の自治体シェア 52%です。これは日本一のシェアと言っても間違いありません。

Q 七つ道具とは、どんなものですか？

小瀬川　私どもでは、選挙運動用の車や船につける表示板、拡声機用の表示板、運転手が着用する腕章、運動員の腕章、街頭演説中を知らせる標旗があります。種類は5つですが、「弁慶の七つ道具」にちなんだようです。

Q 取引先としては役所に納めるということですか？

小瀬川　選挙管理委員会様からご発注をいただいて納めています。最近は入札ですが、4年に1回しかない選挙は専門の業者も少ないので、昔から毎回ご注文をいただいているところがほとんどです。

Q 今は何代目ですか？

小瀬川　9代目です。創業は天明元年（1781 年）です。今のご時世、老舗という表現は褒め言葉にはならないですが、いずれにしても鬼平の時代からあるんですね。

Q 創業からの歴史も教えてください。

小瀬川　由緒正しい家柄でもないので、記録ははっきりしません。ただ、3代目の梅木小彌太さんという方は染屋で、殿様の前で染物をしたと言い伝えで残っています。3代目は武士の家系で、おそらく、趣味か、人から頼まれて染物を始めて、殿様に献上したのでは？と推測しています。

Q 選挙道具を始めたのはいつ頃ですか？

「売るものが変わり作業の内容が変わっても、これまでの礎の上に今があることを忘れてはいけない」と小瀬川さん。

小瀬川　昭和 25 年に今の公職選挙法が制定されましたが、選挙部門ができたのは昭和 30 年です。その頃から東北・北海道唯一のメーカーとして、公営ポスター掲示板や七つ道具の納入を始めました。きっかけは、おそらく、私の祖父で7代目が小瀬川清治という名前で、政治が好きだったからだと思います。小学校時代の作文に「このはなまぎをどごにもまげないぐらいのりっぱなまぢにしたい」と書いてあったそうです。それで選挙に7、8回出た結果、2回当選しました。昭和 29 年の合併前最後の花巻町議、合併後の花巻市議を合計2期務めました。その時に、七つ道具がきたんですよね。「これだ！」と思ったのが、24、25 歳だった父の小瀬川小弥太さんでした。私だったら、気がつかなかったでしょうね。それから東京の日本選挙センターさんという会社に直談判をして仕事をもらいました。今でも当時のことは語り草になっているのですが、「小弥太さんに頼んだら、全然、ものが上がってこない」と。心配になって見に来たら、全部手彫りで、腕章の型を作るだけで2週間も費やしていた。「どおりで、こんなんじゃ時間がかかる。写真製版という印刷技術があるよ」とお客さんから教わって、それからボンボン出てきた、という話です。「これをやりたい！」という気持ちだけあって、仕事を無理やりとってきたわりにできないという。今だったら考えられない話ですね。

Q 他社にないセールスポイントは？

小瀬川　「昔の手法を一切やめて、機械だけでやります」

Monthly Person

株式会社小彌太
代表取締役社長

小瀬川 弘樹（こせがわ・ひろき）

花巻で生まれ、高校卒業後に東京都内の大学に進学。都内の印刷会社に就職し、営業職として仙台で6年勤務。家業を継ぐため、平成7年に帰郷。平成14年に9代目に就任。長谷川宣以（平蔵）を敬愛する52歳。

会社の袢纏でツーショット。職人さんが丁寧に染め抜いた袢纏は、品があります。袢纏と言えば、お祭り。そろそろ季節到来に血がさわぐのは私だけでしょうか？

株式会社エヌワイエス　代表取締役　中川 良成 さんからのご紹介

では染屋さんではないと思うんですよね。世の中に出回っている本当の染物は減っていますが、お祭りで着る袢纏が機械で出したプリントものだと、袖を通す人は納得しません。なので、私どもは昔からの技術を駆使した方法を守りながら、今の新しい技術をとり入れたものづくりにも対応しているという、二刀流を大切にしています。

Q この仕事の魅力はどんなところに感じますか？

小瀬川　多くの人の目や手に触れるものを手がけさせてもらっているころが魅力だと思いますね。娘を嫁に出すような気持ちで自分が創ったものを送り出すので、お披露目になった時は、いつも晴れがましい気持ちになりますね。私が創ったものがあそこにかかっている、あの人が着てくれている…などと、みんなのお役に立っていると思うと、また次のいい仕事をしようとモチベーションになります。

Q 自分なりの勉強や情報収集の方法はありますか？

小瀬川　私は能力がないので、武蔵野の小山昇さんのところで勉強させてもらっています。最初の頃、今まで自分が残してきた仕事の価値はいくらかと質問されて、答えられませんでした。数字が人格と話されますが、年収 4,000 万の社長と 400 万の社長は 10 倍差がある。お客様から認められた評価がその数字だと。それを近づけていくことをやらなきゃと思って、真似するようにしています。例えば武蔵野の真似をして、社員に経営計画書を配って、10 年前から環境整備を導入しています。そして朝の 25 分間、同じところを磨いていますね。

Q 今後の目標を教えてください。

小瀬川　日本一きれいな染屋になる、ですね。昔の染物屋さんや印刷屋さんの工場は汚くて当たり前でした。今の床は白いですが、10 年前は落とした染料やインクをそのままにしていて真っ黒でした。環境整備を始めてから、コンクリの床が見えて、だんだんきれいになってきたんです。大分きれいになったので、「こんな染屋はないぞ」と思っていました。その後、以前お世話になった九州の染物屋さんにまた行ったら、染料もインクも何一つ落ちていなくて、自分のところは「全然、まだまだだ」と思いました。料理人の世界と同じで、新人はインクや染料を使う時間が多いということもありますが、真っ黒になりやすい。20年、30年選手は涼しい顔をして汚さずにやれます。熟練は一流の料理人のような仕事の仕方で、新しく入ってきた後輩の教育もしっかりしている。何事が抜けても、あんなにきれいな会社にはならない、自分は程遠いと痛感しました。でも、そこを目指さないと、いい仕事はできないし、お客様からの信頼はいただけないなと。工場はショールームだと思っています。ふっ散らかっていた方が味があっていいと言う人もいますが、お客様は汚いところに普通は頼みたくないですよね。やらなきゃならないことは、くさるくらいあります。

Q 個人としての目標はありますか？

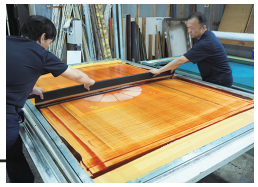
小瀬川　家を建てたことがないので、家を建てたいですね。そして、息子に独り立ちしてもらって、社長を継いでもらって悠々自適に暮らせればいいですね。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

小瀬川　生まれて初めて観た映画『サウンド・オブ・ミュージック』のジュリー・アンドリュースです。小さい頃に叔母と一緒に映画館で観たのですが、字幕でよく分からないながらも、なぜか好きで。製作 50 周年記念の DVD も、その前の 45 周年記念 DVD も持っていて、何十回も観ています。闊達な女性の反面、大佐に心を寄せる健気な姿にひかれますね。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

本社工場での仕事風景。二人一組で息を合わせ、均一に染料を定着させていきます。簡単そうに見えて難しいのが、職人技の奥深さです。



株式会社 小彌太

本社工場　花巻市愛宕町３番１２号
☎ 0198-22-3066　　http://www.koyata.co.jp